

大学

企画課管理用 社 一 B 一 2

推進主体	学長室広報センター
責任者	学長室部長

分類			実施計画	開始年度	完了年度	将来的な継続
社	一	B	②豊島区及びそれ以外の地域との地域連携の強化	令和 4 年度	令和 6 年度	あり(予定)

① 目的・内容
豊島区との連携を中心に様々な地域貢献活動に取り組んでいるが、学生が参加できるプログラムが少ないことから、学生が地域との交流活動を通して成長できるような取り組みが実現できないか、豊島区とも相談した上で検討する。また、豊島区以外の地域については、地域と連携した教員の研究活動を契機として、今後の展開が可能か検討をする。
【地域連携活動の例】
豊島区目白ロードレース、豊島区中学生職場体験、馬術部「馬とふれあう会」、豊島区アートカルチャー都市構想、小中学生の構内見学、近隣小学校と教育学科の連携授業、わくわくとしま日本語教室等

② 到達目標(数値目標／定性目標) ※数値目標を設定できない計画は、定性目標を設定すること。
学生が参加する地域連携活動の実施

③ ロードマップ							
年度	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
予定		豊島区との情報交換			計画達成		
		検討・実施					

④ 数値目標の詳細 ※設定できない計画については記載不要。							
指標の名称			指標の定義(計算式/説明)				
1							
	直近	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
目標							
実績							
2							
	直近	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
目標							
実績							

(様式2) 実施計画書 兼 報告書

⑤ 実施計画／実施報告		
年度	実施計画	実施報告／今後の課題
(2022年度)	地域連携活動について、コロナ禍で実施できていない活動が多いことから、豊島区と情報交換を行い、現状の把握と今後の方向性を確認した上で、学生が参加する取り組みが実現可能か検討する。	コロナ禍以降、豊島区目白ロードレース、馬術部「馬とふれあう会」、わくわくとしま日本語教室等多くが再開しており、徐々にコロナ禍以前の水準に戻ってきている。一方で、豊島区中学生職場体験、近隣小学校と教育学科の連携授業等の活動は再開できていないことから、再開を視野に入れて、今後も取り組んでいく。 ★進捗段階:「計画立案」
(2023年度)	地域連携活動については、コロナ禍が長期化しており、その影響が不透明であることから、豊島区との連携を中心に取り組む。豊島区の方針や方向性を踏まえた上で、中断している活動の再開や既に実施している活動の充実、新たな展開等を検討する。	昨年に引き続き、豊島区目白ロードレース、馬術部「馬とふれあう会」、わくわくとしま日本語教室等を実施しており、今年度は、近隣小学校と教育学科の連携授業を再開した。豊島区と区内大学の地域連携に関する懇談会では、今後のさらなる連携強化に向けて取り組むことを確認している。 ★進捗段階:「実施展開」
(2024年度)	地域連携においては、継続性が重要になることから、実績がある取り組みを継続するとともに、豊島区とのさらなる連携に向けて、新しい取り組み等についても検討する。	新たな取り組みとして、学生が区内の中学生に学習支援を行う「としま地域未来塾」を学内で開校した(学生課)。また、近隣小学校の厩舎見学も実施した(馬術部)。さらに、目白に店舗を構えるアウトドア企業「パタゴニア」と連携し、学生協力の下、環境問題を考えるイベント「WornWearCollegeTour」を学内で開催した(広報センター)。 例年、実施している取り組みとしては、豊島区目白ロードレース(広報課)や「馬とふれあう会」(馬術部)、近隣小学校と教育学科の連携授業(教育学科)、わくわくとしま日本語教室(国際センター)がある。 地域連携活動については、大学全体として、広報センターが窓口となっているが、各部門が直接実施している取り組みもあるため、広報センターが大学全体の情報を集約している。 本計画では、広報センターが学生参加型の地域連携活動の実施を目標に掲げており、パタゴニアのイベントを実施したことでその目標が達成できたため、終了とする。ただし、今後も継続性を保ちつつ、新たな展開について検討を続け、地域との連携強化に取り組む。 ★進捗段階:「計画達成」

⑥ 計画の成果・今後の方針 ※計画を中止する場合はその理由を記載のこと。	
1. 計画の成果	本計画では、広報センターが学生参加型の地域連携活動を実施することを目標に掲げ、目白に店舗を構えるアウトドア企業「パタゴニア」と協働し、環境問題を考えるイベント「WornWearCollegeTour」を学内で実施した。このイベントでは、学生団体が運営側として企画や準備、実施に至るまで、貴重な経験を得ることができた。当日は多くの学生が参加し、環境問題について考える機会を提供するだけでなく、企業や社会課題とのつながりを意識した学びの場を提供することができた。この取り組みにより、学生が実践的なスキルや社会的な意識を高めるとともに、学生と地域との接点を創出し、地域との連携を深めることができた。
2. 今後の方針	地域連携活動は、継続的に実施することで、地域との信頼関係が構築され、取り組みの効果が高まる。本イベントは、今年度の企画となっているが、今後の継続性や新たな展開等を検討し、引き続き地域との連携強化に取り組む。
<p>※計画完了時点で記載してください。 ○…必須事項 △…必要に応じて記載</p> <p>○②到達目標に対する結果</p> <p>○計画の中止理由(※中止する場合)</p> <p>△今後の見通し・課題(通常事業化など)</p> <p>△その他</p>	